

# 「アビガン、副作用が心配」

作家の田中康夫氏は3日、新型コロナウイルスによる都市封鎖(ロックダウン)や、緊急事態宣言を超える「未知の事態」を憂慮して言った。

「ウイルスは、無色・透明・無臭。放射能と同じく、人間の五感が察知しない厄介なものだ。しかも、ウイルスは絶え間なく変異し続ける存在だ」

このウイルスに対抗する薬とし



て、安倍晋三首相は3月28日の記者会見で、富士フィルムホールディングス(HD)傘下の製薬会社「富士フイルム富山化学」が開発したインフルエンザ薬「アビガン」の写真を、同社提供の具体的な名を明示して言った。

「アビガンについて、新型コロナウィルスの治療薬として、正式承認に向け、治験のプロセスを開始する」

田中氏が指摘した。

「アビガンについて、その副作用を危惧する声が多い」

ノーベル医学生理学賞を受賞した京都大学の山中伸弥教授は個人の情報サイトで「ワクチンと治療薬の開発に全力で取り組むべき」と提言することともに、こう書いた。

「アビガン等の既存薬が期待され

ていますが、副作用も心配されます」米紙ウォールストリート・ジャーナルが書いた。

「日本で新型コロナ治療薬の試験、先天異常の危険も」「富士フィルムホールディングスの『アビガン』」妊娠した女性が服用すると、胎児に奇形が生じる恐れがある、という。安倍首相は会見で、勇ましい発言をした。

## 鈴木棟一の風雲永田町

6271

「感染拡大が抑制された際には、一気に日本経済をV字回復させていく。旅行、運輸、外食、イベントなどについて、短期集中で大胆な需要喚起策を講じる」

さらに、来年に延期された東京五輪について。

「人類が新型コロナウイルスに打ち勝った証しとして国民の皆さんと

ともに来年の五輪・パラリンピックを必ずや成功させたい」

田中氏が首をかきつけた。

「打ち勝つ未来図に惑わされ、いま全力を尽くすべき感染との戦いに楽観が生じないか」

「密閉空間」「密集場所」「密接場面」が感染の3密とされる。田中氏が言った。

「ドナルド・トランプ米大統領は3密を嫌い、ホワイトハウスの会見は屋外の庭園で、雨天の場合は記者が大幅に間隔を開けて空けて座る屋内。比べて、首相会見はかなり問題だ。国会こそ、3密の典型だ。本会議、委員会、議員会館は対人接触が濃厚な場だ」

田中氏が結んだ。

「この2週間は重大な分岐点。他人との接触到、よほど気を付けねばならない」

(政治評論家)

## 田中康夫氏「国会こそ3密」